

本当の休息への招き（マタイによる福音書 11:25-30）

2020年4月26日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

今日も「コロナとキリストの十字架」シリーズを続けます。あなたに質問です。心から疲れきった時、あなたは何をしますか？あなたは本当の、また長続きする休息を知っていますか？今日も有名な聖書箇所から、3つのポイントとともに見ていきます。1. 真実の知恵を見えなくさせる世の知恵 2. 私たちに本当の必要を示してくれる、全てを支配しているキリスト 3. 本当の休息を与えてくれるキリストの軛（くびき）です。

1. 真実の知恵を見えなくさせる世の知恵

25～26節

「25 そのとき、イエスはこう言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。26 そうです、父よ、これは御心に適うことでした。』」

心に留めておいて欲しいのは、この箇所は、イエスが3つのガリラヤ地方の街を叱った直後のことです。その1つはイエスが自分が育ったナザレの街で拒否された後、「私の街」と呼んだ、カファルナウムという街でした。（9章）カファルナウムは、私たちの街、今の東京のような、経済と貿易の中心であり、賑やかな都市でした。そこで、イエスは、8章5節で、百人隊長の僕を癒したような奇跡をたくさん起こしました。しかし、イエスのたくさんの奇跡を見ながらも、カファルナウムの街は悔い改めませんでした。だから、25節でイエスは「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠し…」と言ったのです。さて、イエスの言った「隠したもの」とは何のことでしょうか？なぜそれを「知恵ある者や賢い者」から隠したのでしょうか？そして、その「知恵ある者や賢い者」とは誰でしょうか？

ユダヤ人社会の伝統と基準によると「知恵ある者や賢い者」とは、宗教的な指導者たちだと考えられています。彼らには霊的な盲目があり、イエスのメッセージを理解することができませんでした。だから彼らは頻繁にイエスに敵対しました。さて、この世のなかにはたくさんの知恵がありますよね？科学、哲学、教育、文化などを通して広い知識を得ることができます。神学者たちはそれを「一般的な啓示」と呼びます。しかし、群衆と宗教的リーダーたちは神さまの前に、小さな子どものようにへり下ることができませんでした。もしあなたが人間的な知恵を偶像にしまい、それを神のようにしているなら、また、あなたが自分の見解の中での賢さを持っているだけなら、子どものような謙虚さと信仰を持って神に近づくことは難しいです。

そういう訳で、25節にあるような、幼子のような信仰ではない、16-19節の甘やかされている子どもたちの世代と比較しています。大人げないリアクションをする世代の人々を叱った後、イエスはここで言います。「神は、幼子のような者に神の真実を示された」と。「幼子のような者」とは例えです。それは、「心が素直で純粹な者」という意味です。それは、キリスト教が反知的だということではありません。しかし、バプテスマのヨハネとイエスのメッセージを理解できなかったのは「知恵ある者や賢い者」だったのです。なぜなら、知的なプライドがあると、イエスについての真実が隠されてしまい、見えないからです。誰でも、神さまに近づくことが妨害されてしまうのは、その人が子どものような素直さで学ぼうとしないからです。あなた自身の知恵を誇ったところで、神さまを理解することはできないのです。なぜこれが関係あるのでしょうか？私たちが住んでいるこの街、東京は経済、富、権力、教育、知識の中心です。人々は、「知識は力だ」と言います。科学と技術が進歩したこの時代では、知識が豊富な人は他の人より力があるように見えるのです。しかし、私たちがこれらの良いものを神さまのようにしてしまう時、まるでそれらが人間が深く求めている究極的な答えだとしてしまう時、それらは内面的な疲労と絶望の源となってしまいます。実際に、創世記3:6で、悪魔がエバを騙したとき、「その木はいかにもおいしそうで、目を引きつけ、賢くなるようにそそのかしていた。」と書いてあります。

しかし、イエスがここで言っているのは、神さまと知恵を得たいなら、子どものような謙虚さ、素直さ、正直さを持たなければならない、ということです。いいですか、ここに違いがあります。子どものように素直に学べる心を持った信仰と、宗教的指導者のようなプライドでいっぱい、子どもじみた信仰。あなたがたのうち何

人が、小さな子どもは親の知恵に頼っていることを知っていますか？そうですよね。5歳の子の知恵と、50歳のお父さんの知恵には大きな差があります。人間の知恵は、神さまの広く深い海のような知恵に比べると、ピーナッツみたいなものです。それは、現在の私は、自分が思っているより賢くないということです。なぜなら、10年後の自分は今よりもっと賢くなっているからです！もっと後の18章3節で、イエスはこう言いました。「はっきり言うておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」言い換えると、あなたが人間的な知恵を神のようにすることから背を向けて、子どものように神さまの腕の中に飛び込んで行かない限り、あなたが心から求める究極的な答えを見つけることはできないのです。あなたが神さまを知り、理解する唯一の方法は、人間の知恵ではなく、神さまの恵みによる啓示によって、です。26節でイエスは、「そうです、父よ、これは御心にかなうことでした。」と言いました。幼子のように神さまの恵みに頼ることは、神の御心なのです。

次のポイントを見ていきましょう。

2. 私たちに本当の必要を示してくれる、全てを支配しているキリスト

27 節

「27すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。」

25節でイエスが父なる神様を「天地の主」と呼んでいましたね？ここ27節では「すべてのことは、父からわたしに任せられています。」と言っています。すごいことです！神さまの救いの計画を達成するために必要なことはすべてイエスに任せられていたのです。先週6章で見たように、天の国は、イエスとともにやってきます。だから、ここでイエスが全てを支配している唯一の方だと理解することは、私たちは支配していないということです。イエスだけが、天でも地上でも、すべてを支配しておられる権力を持っておられるのです。それは、私たちは、自分が、自分の周りの世界をコントロールしている「神」ではないということです。コロナウィルスの感染拡大は、多くの目に見えないウィルスが、私たちのコントロールを超え、日常を混乱させるものだということを思い出させました。ただ、私たち人間の理解では、なぜ神さまがこれが起こることをゆるされたのか分かりませんが、だからと

いって、神さまに良い理由がないとは限りません。イエスは「すべてのことは、父からわたしに任せられています。」と言います。後に、マタイ28:18でイエスは、「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」と言っています。この世界を贖う（買い取る）ために必要な権威はすべてイエスにあるのです。

そして、イエスはこう言いました。「父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。」さて、あなたの国の総理大臣のことを一番良く知っているのは誰でしょう？そうですね、一番良く知っているのは、総理大臣と一緒に暮らす、奥さんや子どもたちですね。ネットで記事を読むだけの見知らぬ人ではありません。では、質問です。あなたは神さまを知っていますか？あなたは、神さまを個人的に、また親密に知っていますか？

まさにここで、イエスは、私たちが神さまと親密な関係を持つ重大さを示しました。私たちが天の父と親密になれるように、父のことを知らせにきてくれたのです。驚きです！全宇宙の支配者が、あなたと関係を持ちたいなんて、信じられますか？すごいことです！いいですか。ここでの「父」という言葉が、家族の言葉です。25節から27節にかけてイエスは神様のことを「父」と、5回言いました。25節の前半で、「幼子」という言葉も使いましたが、それも家族の言葉です。

だから、イエスが言った言い方に気づいてください。「父のほかに子を知る者はなく、子のほかには父を知る者はいません。」父と子は、この世界が形作られるずっと前から完璧な関係を持っていました。つまり、私たちが人間関係で満たされない思いを抱き、葛藤するようなことはありませんでした。父と子は、いつもお互いの関係に満足していました。実際のところ、私たちが人間関係の中で満たされること求めてしまうことは、神さまとの親密な関係が必要だということを示しています。私と妻は結婚して9年になります。そして、今年、結婚10周年を迎えます。知り合ってから年月を通して、お互いのことをもっと良く知ることができました。一緒に過ごしてきたこの9年を通して、今でも、神さまがどれほどシゼルを美しく造られたかに驚くことがあります。9年前に初めて会った時よりも、今日の方がシゼルのことを良く知っています。しかし、その過程にも悔い改めは必要です。なぜなら、罪は、どんなに最高な人間関係の中にでさえも存在するからです。だから、父と子の場合、彼らには罪がなかったから、お互いのことを完璧に知っていたのです。父と子はその完全な聖さゆえに、完璧な調和のある関係でした。ヨハネ3:35で、「イエスは御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。」とあります。父は子を完璧に愛しておられるのです。そして、この父との愛の関係が、私たちが何よりも一番必要なものです。もし、あなたがクリスチャンではないなら、伝えたいです。神さまは、あなたが自分自身を知っているよりも、もっともっとあなたのことを良く知っています。そして誰も理解できない、あなただけが望み、求めている関

係を理解してくれています。イエスは言いました。「父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。」いいですか、父は子を知っていて、完璧に愛しているのです。そして、神さまは私たちのことも知っていて、完全に愛してくれています。あなたは、天の父に良いところも悪いところも、完全に知られていて、それでもなお、完全に愛されているのです。だから、イエスはこれを示すために来たのです。罪は、私たちがお互いのことをもっとよく知ることから遠ざけようとしています。罪は、どんなに最高の人間関係の中にも立ちまわります。罪は、私たちが神さまとの関係を深めることを妨害します。神さまは、私たちのために、子を遣わしてくれました。イエスは「すべてのことは、父からわたしに任せられています。」と言いました。私たちが神さまと関係を持つために、深めるために必要なことはすべてイエスに任されているのです。

では、最後のポイントです。

3.本当の休息を与えてくれるキリストの軛（くびき）

28-30節

「28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。 29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。 30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

イエスの招きはこうです。「わたしのところへおいで。」28節を見てください。ただ単純に、「来なさい」と言っています。誘われているのは、ただ、「来なさい」なのです。これは恵みの言葉です。気づいて欲しいのは、イエスは、「あなたの重荷を降ろしてから来なさい」もしくは、「まず働くのをやめてから来なさい」と言っているのではないのです。「他のところで重荷を背負ってから来なさい」でもありません。「問題がなくなったら来なさい。」とも言っていない。「あなたが十分きれいになったら来なさい。」とも言いません。そうです。何も条件なく、何かをしてからでもなく、ただ、そのありのままの状態、「来なさい」と言ってくれるのです。ここで提示されている唯一のことは、「誰でも、疲れた者、重荷を負うものは」です。そしてイエスの約束はこれです。「あなたに休息をあげよう」さて、人々はどのように「疲れて、重荷を負っている」のでしょうか？これはとても大切なこ

とです！いいですか、ここでイエスが言っていた人々は、宗教的な偽善者たちの律法のもとで働いていた人たちです。

29節の「軛」という言葉を見てください。「軛」とは2匹の牛が、重い荷物を運ぶために首につける、木製の輪っかのようなものです。ユダヤ人の教師たちはよく「律法の軛」をつけることについて話していました。しかし、彼らは、神の律法に「伝統」と「ルール」を加えたのです。だから、これが人々が耐えなければいけない重荷となっていました。イエスは23:4で「彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。」と言っています。使徒15:10では、ペテロが偽善者たちの律法に対決した時、「それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。」と言いました。しかし、イエスは、今日の箇所、マタイ11:30で「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽い」と言いました。なぜイエスの軛は負いやすく、軽いのでしょうか？なぜそれが可能なのでしょうか？イエスの軛が軽い理由は、5章で見たように、イエスからの、弟子になるための要求が少ないからです。イエスの軛が軽いのは、「優しくてへりくだった心」を持つ方だからです。ここで、イエスの心が分かりますか？「"gentle" 優しい、柔和な、穏やかな」と訳されるこの言葉は、21:5にもあります。そこで書かれているのは、イエスは、「柔和で、ろばに乗った」王さま、です。（力を見せびらかすような立派な馬ではなくて、小さな口バ）そして、「"lowly" へりくだった、頭を低くした」という言葉を見てください。それは、美德としての謙遜という意味ではありません。ここでは、貧しさ、もしくは生活環境がもたらした謙遜さという意味です。いいですか、イエスが、すべての権力を持つ王さまが、あなたのために、十字架で一番低い者となられたのです。十字架に架かってくださった、一番謙遜した王です。

今日、取り除きたい重荷はありますか？心の中で一生懸命頑張って、それでもやっぱり自分は十分じゃない、自分は足りない、と感じていますか？あなたの心は、休む間もなく、大変な仕事をこなそうといていますか？あなたの心は、コロナウィルスのことによって不安になったり心配になったりして重くなっていますか？「わたしのところへ来なさい。わたしが休ませてあげよう。」とイエスは言われます。現代人の多くの人々は、イエスのところへ行ったら、個人的な自由と独立を失うのではないかと思っています。しかしイエスはこう言います。「あなたはまだわたしをよく知らない。いいから、わたしのところへおいで。わたしはあなたに重荷ではなく、休息をあげるよ。わたしの軛を負って、学びなさい。わたしの軛は負いやすいから。わたしの重荷は軽いから。あなたの心は休まるだろう。」コントロールしたい偶像から休みましょう。必死に自分の義を証明しようとすることから休みましょう。イエスは永遠に続く休息を与えてくれます。

あなたは罪に重荷を感じていますか？いいですか、罪は、心の中に罪悪感と恥を生み出します。そしてその罪悪感と恥は、あなたの良心に重くのしかかってくる。あなたの平安と喜びを奪います。あなたの心は霊的な落ち込みと戦っていますか？それは、重荷になっていませんか？もし、あなたの心が重荷で悲しんでいるなら、もしあなたが、痛みと苦しみの重荷を負っているなら、イエスの言葉を聞いてください。「わたしのところへ来なさい。わたしが休ませてあげよう。」「わたしのところへおいで。」と優しい声で言っています。わたしたちが無条件でイエスのところに行けるのは、イエスが十字架の上で最大の重荷をあなたのために負ってくださったからです。全てを支配しておられる唯一の方の近くに「行く」ことは安全です。イエスが罪の呪いを全部取ったから、イエスの完全な聖さの中で、イエスの近くに行くように呼んでくれているのです。イエスはあなたが入れるために、追い出されました。律法の呪いをあなたのために取り去りました。あなたを打ち砕くのではなく、あなたに対して優しい、一番柔和な王さまです。こんな素晴らしい優しい王さまの近くにいるのは、とても穏やかな気持ちになる、安らぎの時です。

この、全てを支配しておられ、すべての権力を持った唯一の王は、一番優しく、一番低くなられた唯一の方でもあるのです！イエスは私たちとの間に壁を作りません。恵みを持って私たちを迎えてくれます。3つの都市を叱ったこの方は、あなたのために十字架にかかった、一番優しく低くなられた方なのです。イエスは、圧力をかけてくる偽善者たちや、ローマ帝国の役人たちのようではなく、重荷を引き上げてくれる王さまなのです。

だから、今日、イエスのところへ行きましょう。イエスの轡を負いましょう。イエスの弟子になりましょう。1ヨハネ5:3では、「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」と書いてあります。もしかしたら、あなたはイエスを褒め称えることから遠ざかっていたかもしれませぬ。もしかしたら、イエスのことは好きだけれども、今日まで、ちょっと距離をとって、ついて行っていたかもしれませぬ。あなたがそうであるなら、イエスはあなたにこう言われます。「わたしのところへ来なさい。わたしの轡を負いなさい。わたしと親しい弟子になりなさい。わたしから学びなさい。わたしはあなたに優しい者です。わたしはあなたを押しつぶす者ではない。わたしは柔和な者です。わたしはもうすでに、あなたの最大の重荷を十字架の上で取ったから。さあ、今来て、わたしの内で休みなさい。」イエスの招きは、休息を与えるための優しい招きです。イエスの心の近くにいる親密な弟子になるための招きです。

だから、今日、イエスのところへ行きましょう。イエスの轡を負いましょう。イエスから学びましょう。そしてイエスの中で安らぎましょう。そうして、あなたもイエスのように優しくなっていくます！